

## SNS を用いた仮想クローゼットシステム

多田 陽風<sup>†</sup> 杉野 栄二<sup>†</sup> 瀬川 典久<sup>†</sup> 澤本 潤<sup>†</sup>岩手県立大学ソフトウェア情報学部<sup>†</sup>

## 1. はじめに

近年ファッションの系統は多種多様化し、数多くのファッション雑誌が発売されている。色々な服を選び身につけることは、手軽な自己表現の手段として人々に浸透している。

しかし、人には色や柄などの好みがあり、本人が気づかないうちに同じような服ばかり選んで買ってしまった場合がよくある。またその中から、特に気に入った物を選んで着るために、無意識のうちにあまり着ない服を箆笥の奥にしまいこんでしまいがちである。

そこで本研究では、人物の日々の服装の記録を取りながら、所有する洋服アイテムの管理を支援するシステムを構築し、評価実験を行い、システムの有用性と問題点について検証する。

## 2. 関連システム

本システムに類似しているシステムとして、FUKULOG[2]を挙げる。FUKULOGは、洋服アイテムとコーディネート登録が可能なSNSである。

FUKULOGのようなSNS上に仮想のクローゼットを作るシステムや、似た機能を持ったスマートフォン用アプリケーションはいくつか存在する。しかし、ただ仮想のクローゼットを作り、コーディネートのログを残していくだけでは電子化するメリットはそれほど多くない。電子化することにより蓄積された洋服の情報から、どんな色の洋服を多く持っているか、どの洋服アイテムを好んで身につけているか等の服装の傾向を抽出すれば、ユーザに興味嗜好の気づきを促すメリットがあるはずである。また、SNSの特徴を活かし、単独のスマートフォン用アプリケーションではできないユーザ同士での新たなコーディネートの提案も可能になるだろう。

本研究で提案するシステムはFUKULOG同様にSNSの形で構築するが、洋服の傾向を抽出する機能を組み込んだ点が違いである。

## 3. システム概要

本システムのシステム構成図を図1に示す。システムはユーザインタフェース部、洋服アイテム登録部、コーディネート登録部、洋服アイテムデータ分析部、おすすめコーディネート提案部と、洋服アイテムデータ、コーディネートデータで構成される。洋服アイテム登録部では、所有する洋服アイテムデータを登録する。コーディネート登録部では、毎日のコーディネートデータを登録する。その際、洋服アイテム登録部で登録した洋服アイテムデータを参照し、着用アイテムを合わせて登録する。洋服アイテムデータ分析部では、洋服アイテムデータを参照し、色ごとの洋服アイテム数を数える。おすすめコーディネート提案部では、登録された洋服アイテムデータを参照し、新たな洋服の組み合わせを提案する。

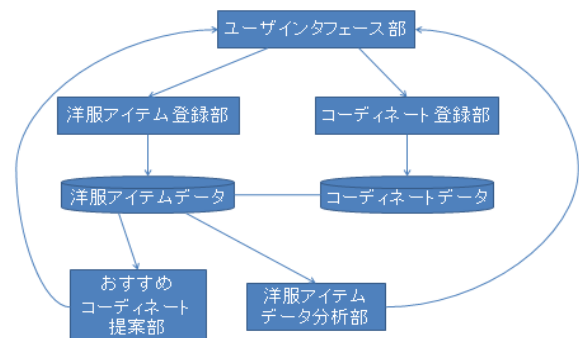


図1：システム構成図

## 4. プロトタイプシステム

作成したプロトタイプシステムのシステム構成図を図2に示す。本システムの実装には、OpenPNE2[1]を用いた。このため3節で述べた各機能部分は、OpenPNE2の拡張モジュールとして実装した。プロトタイプシステムでは、おすすめコーディネート提案部は未実装である。

“Virtual Closet systems using SNS”

<sup>†</sup>Haruka Tada, <sup>†</sup>Eiji Sugino, <sup>†</sup>Norihisa Segawa,

<sup>†</sup>Jyun Sawamoto

<sup>†</sup>Faculty of Software and Information Science,  
Iwate Prefectural University

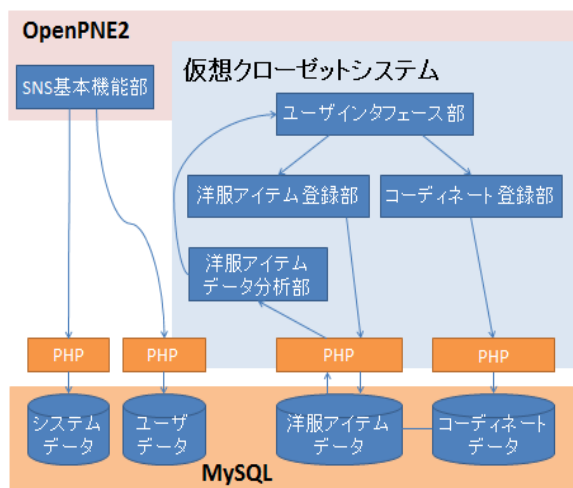


図 2：プロトタイプシステム構成図

作成したプロトタイプシステムの画面イメージを図 3 に示す。前述のとおり、本システムの実装に OpenPNE2 を用いたため、画面イメージは OpenPNE2 の画面とほとんど変わらない作りになっている。仮想クローゼットシステムに当たる部分は OpenPNE2 の拡張モジュールとして実装したので、メニューバーにはコーディネート項目が、最新情報の欄に最新コーディネートや最新カテゴリが掲載されている。

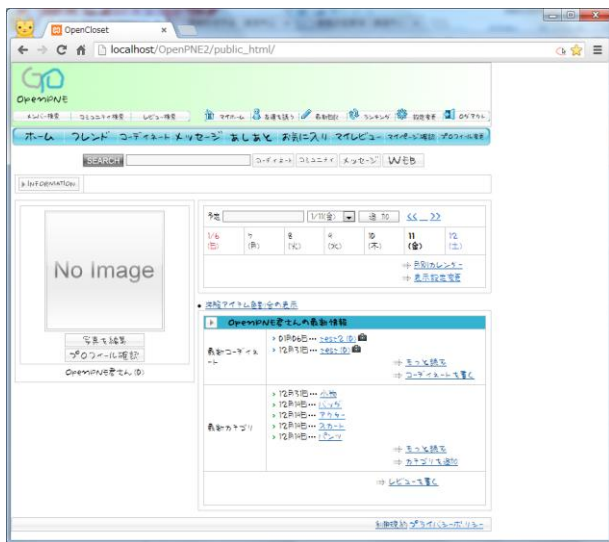


図 3：プロトタイプシステム画面イメージ

## 5. 評価実験

本研究で構築した仮想クローゼットシステムが、ユーザがどんな色の洋服を多く持っているか、どの洋服アイテムを好んで身につけているかという傾向を把握するのに有効かどうかについての評価を行う。

評価内容として、ファッションに興味を持つ人

数名を対象に本研究の目的、背景を説明した上で、デモンストレーションを行う。デモンストレーションには、あらかじめ登録しておいたテストユーザの 1 か月分のコーディネートと、その際着用していた洋服アイテム、その他所有する洋服アイテムのデータを用いる。デモンストレーション後、アンケートに答えてもらう。アンケートの項目として、性別、年齢、職業、本システムのように仮想のクローゼットを作って洋服を管理することについてどう思うか、システムがユーザに対して通知する項目についてどう思うか、等を想定している。これらの項目については、5 段階での評価とする。その他に、システムに対して感じたことを自由に記入する欄も設ける。また、普段洋服を購入する際に意識していること、普段洋服を着る際に意識していること、普段の洋服のしまい方等についてもアンケートを取る。

評価結果として、ブランド等より多くの項目の傾向をユーザが把握できるような機能を追加すること、洋服アイテムとコーディネートの登録をより簡単にすること等が挙げられると想定している。

## 6. まとめと今後の課題

本研究では、SNS を用いてユーザの所有する洋服アイテムと日々のコーディネートの記録を取りながら、所有する洋服アイテムの管理を支援するシステムを実装し、その有用性を実証する評価実験方法を示した。

ユーザは SNS 上で仮想のクローゼットを作り、システムからのフィードバックを受けることによって、自身の所有する洋服アイテムの色の割合、ある洋服アイテムを最後に着用した日付を把握することができる。

今後、5 節で示した評価実験を行い、システムの有用性と問題点について検証する。

## 7. 参考

[1]OpenPNE:

<http://www.openpne.jp/>

[2]FUKULOG:

<http://fukulog.jp/>